

令和6年度補正予算「省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金」  
「工場・事業場型」における『先進設備・システム』公開用概要書

製造会社情報（コンソーシアムの場合は、幹事社）

設備/システム名	PETボトル無菌充填システム（グリーンアセプティック+2段殺菌システム）
製品種別	エネルギー負荷設備（本体設備）
型番	
会社名	株式会社アセプティック・システム
本社所在地	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
会社WEBページURL	<a href="https://www.dnp.co.jp/group/aseptic-systems/">https://www.dnp.co.jp/group/aseptic-systems/</a>
製品紹介ページURL	<a href="https://www.dnp.co.jp/group/aseptic-systems/business/">https://www.dnp.co.jp/group/aseptic-systems/business/</a>

製品についてのお問い合わせ先

連絡先	株式会社アセプティック・システム 営業担当：廣岡、技術担当：早川 代表電話：03-6735-0809
-----	--

登録設備情報

導入可能な主な業種・分野	E. 製造業		
導入対象となる分野・プロセス	飲料・食品分野 飲料等充填システム		
導入事例の省エネ量（原油換算：kl）	515.6	kl/年	
工場・事業場当たりの想定省エネ率	—	%	
設備・システム当たりの想定省エネ率	47.0	%	
導入事例における費用対効果（年間）	1.7	kl/千万円	
1台又は1式当たりの想定導入価格（参考）	3,000,000,000	円	
保守・メンテナンス等の年間ランニング費用	100,000,000	円/年	

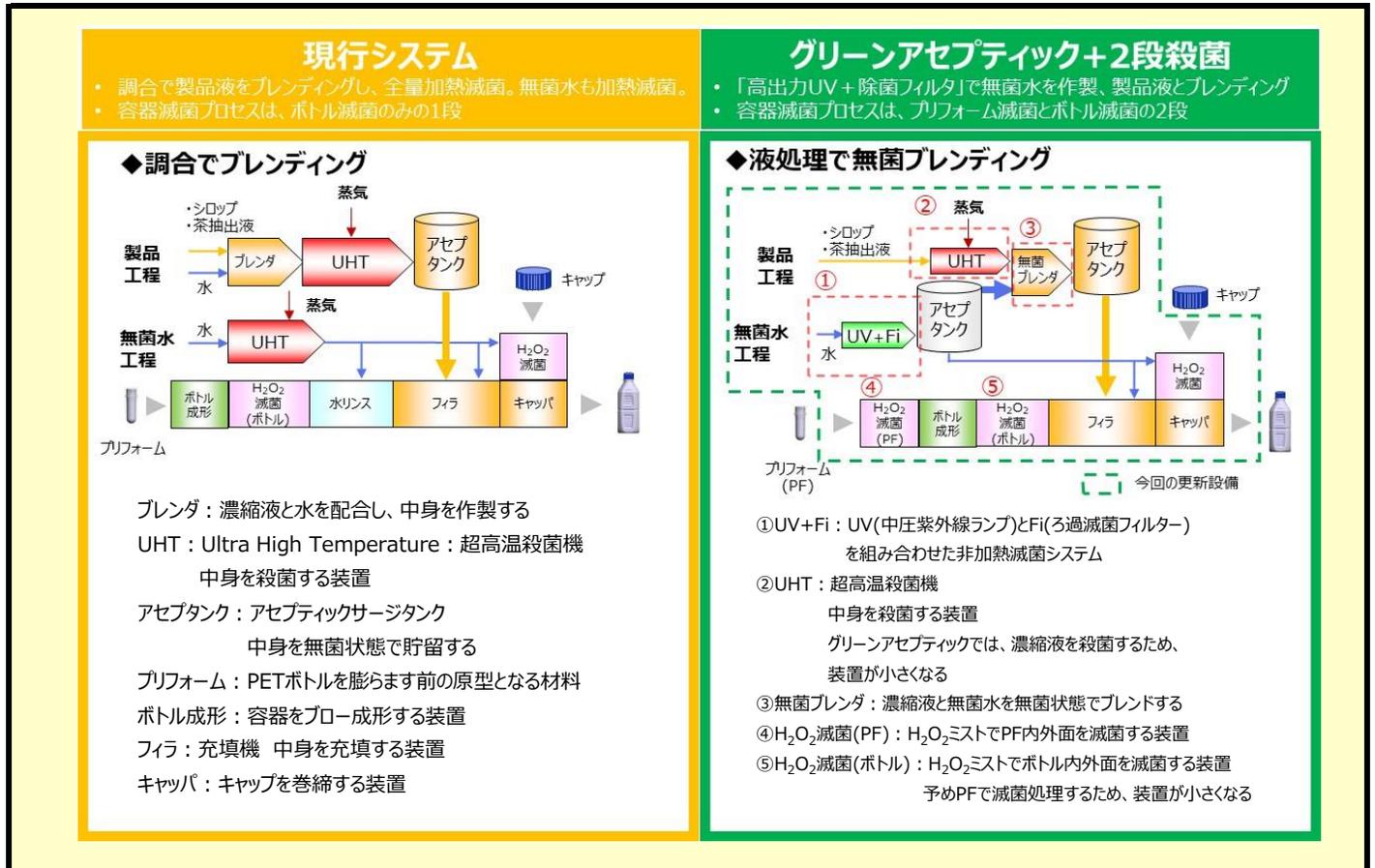
製品・システムの概要

<p>PETボトル無菌充填システムは液処理、無菌充填機、ボトル成形機の3つから成る。今回開発した新技術は2つあり、液処理に非加熱滅菌システムを導入した点とボトル成形機にプリフォーム（以下、PF）滅菌機を連結した点である。順に説明する。</p> <p><b>1. 液処理設備：水の非加熱滅菌システム（中圧UVランプ+ろ過滅菌フィルタ）</b></p> <p>現行システムは製品液と水をブレンドした後、全量を加熱滅菌し、容器の洗浄水（以下、無菌水）も同様に全量加熱滅菌している。本システムでは中圧UVランプとろ過滅菌フィルタを組み合わせ、非加熱で水を滅菌し、加熱滅菌した製品液と無菌ブレンドする（呼称：グリーンアセプティック）。また容器やチャンバの洗浄水も全て非加熱で滅菌した水を使用する。これにより大幅な蒸気量の削減が可能となる。ポイントは、日本で導入実績が少ない中圧UVランプを採用した点である。本ランプは消費電力が毎時6kWと小さいにもかかわらず、従来の低圧UVランプよりもろ過滅菌フィルタを通過する極小細菌に対して高い殺菌力を有する。中圧UVランプとろ過滅菌フィルタを組み合わせることで、時間30トンの無菌水をほぼカーボンフリーで製造することに成功した。シロップや茶抽出液を5倍に希釈する場合、液処理の蒸気量は約80%削減される。ただし、飲料によっては適さないものがあるので事前にご相談ください。</p> <p><b>2. ボトル成形・充填設備：2段殺菌システム（PF滅菌+ボトル滅菌）</b></p> <p>PETボトル無菌充填機は1分間に600～1000本の小型ボトルを滅菌・充填している。ボトル滅菌に要する時間は約5秒と短い。そのため多量の過酸化水素を気化させ、ボトルにミスト状で噴霧し、ホットエアで乾燥・除去した後、無菌水で洗浄している。結果、ボトル滅菌機は無菌充填機の約半分を占める。そこで、ボトル滅菌機の省エネ・省スペース化を目的に、ボトルの原型であるPFをブロー成形前に滅菌し、ボトル成形後に従来の半分の滅菌を行う「2段殺菌システム」を開発した。PFはボトルに比べて表面積が1/4以下なため、ボトル滅菌に要する蒸気・電力・薬剤の約40%削減と約30%の省スペース化が可能である。</p>
--

先進性についての説明

<p>現行のPETボトル無菌充填システムは、製品液、無菌水を約140℃で滅菌するため多量の蒸気を使用する。一方、無菌医薬品の製造で使用されている滅菌フィルタは常温でろ過滅菌できるが、極小細菌の通過を認める。本課題を解決するために、耐熱性の高い中圧UVランプに着目し、極小細菌を滅菌できるUV照射量を見出した。結果、中圧UVランプとろ過滅菌フィルタを組み合わせることで、非加熱で大量の無菌水を製造することが可能になった。加えて、製品液と無菌ブレンドする新プロセスの開発により、製品液のUHT (Ultra High Temperature) 滅菌機のコンパクト化・省スペース化にも繋がった。製品滅菌機の小型化により、生産間で行うCIP (Cleaning In Place)、SIP (Sterilization In Place) においても、水・洗剤・排水・蒸気・CO2排出量が大幅に削減された。</p> <p>また、ボトル滅菌プロセスを従来のボトルのみの滅菌から、PFとボトルでの2段階の滅菌へ変更することにより、ボトル滅菌に要する蒸気・電力・薬剤が約40%削減され、設置面積も約30%削減された。すなわち、本システムは高い無菌性を維持し、且つ省エネ・省スペース化を実現できる革新的な生産設備である。</p> <p>※グリーンアセプティックに関する国内特許登録数：23件、2段殺菌システムに関する国内特許登録数：30件</p>
---

製品・システムの概要・イメージ図



導入事例の概要・イメージ図

業種・分野	飲料	対象設備・プロセス	飲料充填システム
<p>【導入施設】 飲料工場</p> <p>【導入した内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンアセプティック: 500mlPETボトル飲料を1分間に600本製造</li> </ul>			
<p>グリーンアセプティック</p>		<p>中圧UVランプ</p>	<p>無菌充填機</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2段殺菌システム: 500mlPETボトル飲料を1分間に600本製造</li> </ul>			
<p>2段殺菌システム</p>		<p>無菌充填機</p>	